



けんぷファー?!②

【ごあいさつ】

こんにちは！佐藤あいです！

これを見ているということは、けんぷ?! 2の無料サンプルおためしか
っ!?!?!?!?!?!?!?!?!?!をダウンロードしてくださったんですね！^

///^ありがとうございますwwwwww

この小説は、おふざけた携帯小説形式ですので、横書きです。

縦じゃないです！びっくりしないでね！www←

(これは本来のまえがきじゃないですwww)

おためしかっ!?!?!?!?!?!?!?!?!?!なので、数話のみ見れます！

こんなかんじでやっていきますのでよろしくど一ぞ!!w

【登場人物】



こば（青）：♀・主人公・銃使い・バイト先の女の子、あやののことを気に掛けている。普段は口数が少なくクールだが、変身後は逆転しよくしゃべるようになる、そしてぱっちり目になる。男には興味がないらしいが最近どうも高橋の熱意に押されかけていて、本人的にはやれやれという感じ。

（慣れってやつですかね？）（笑）

髪の色：変身前は黒。

変身後は黒に2本白いメッシュが入る。



あい (青) : ♀・こぼの親友・魔法使い・なんか小動物系の癒し系っぽい人。
おっちょこちょいで鈍く、争い事はきらい。思いやりがあり優しいがオカルト傾向があり、ケンに女装をさせてみたいというひそかな願望を抱いている。ケンに好意を持たれているということにあまり気が付いていない。
変身し、アイになると性格が活気的な男っぽくなり、体力も頭の回転も良くなる。「俺」口調になる。後者は高橋をつぶしたいと思っている。
髪の色 : 変身前:黒 変身後:ルンヅ



あやの (赤) : ♀・敵だったが今は味方に・魔法使い・今まで攻めてきていた、「揚げ玉」さんの正体。一人称は「僕」。こばのバイト先の年下の女の子・人を信じなかったが、こばとあいの想いの強さに心を動かされた。ぬいぐるみよりも「Nじま」と現実世界でいわれている声優を愛しているが、この物語とはなんの関係もありません (笑)

髪の色 : 変身前は黒。

変身後は赤。



ケン (赤) : ♂・味方・鎖付き剣使い・大学の男友達・高橋の相棒・すごいマイペースで少し鈍いところがある。物語中のやられ役？ (笑) あいちゃんに気持ちを伝えようと頑張っているが、よくアイに邪魔されて終わる。そしてアイにいじられているが本人は特に動じていない。変身後は美しいおねえさんになり (♀)、口調も「私」になる。

髪の色 : 変身前は黒。 変身後も黒だがロングになる。



高橋：♂・通称部長さん。日本刀のような剣使い・同じく大学の男友達・ケンの相棒・こばに無視され可哀想な役回しにされているがくじけない。それでもこばにつっかかるが、気持ちに気付いてくれなく空振りしている。でも最近はなんとなくいい感じになった！と自分に自己暗示をかけている。実はモデレーターであり、あやのとは過去に会っていた。アイのことがうざいらしい。

髪の色：黒・たまーに茶色だったりする

—————大学の研究室。

ケン「♪」（←ネットゲに夢中になってる）

（ゲームの音：てーてれれてててーてーてー♪）

高橋「あ〜あ...暇だな...。おあ！この子可愛い！！」（←パソコンの画面にくぎ付け）

（エロゲの音：ちょっとお？！見てんじゃないわよ！っの...どすけべが！バキッ）

何とも言えないフリーダムな空気が流れている...

とにかくこの研究室は2人しかいないのだった。

しかも男2人！しかもケンはサボって遊んでる。

高橋もサボってエロゲに没頭してる...

ケン「あ！...武器が壊れちゃった！！」

（ゲームの音：ちゃらららんっ♪！...ボンっ！！ピーピー！）

高橋「うお...いいショット...尻が...。アングル...。カメラまわんねえのかよ！ちくしょう！！」

（エロゲの音：お兄ちゃん！やめてえ！おにいちゃん...！きゃあ）

ケン「とりあえず宿屋行って回復させよ〜...いくらだったかな？何ゴールド？...」

(ゲームの音：宿屋の BGM)

高橋「この子は...そうだな！7億ゴールドの価値が！」

ケン「ええ?! そんなにするの? この宿?! ちょ...! 無理でしょ! だって 3,067 ゴールドしかもってないよ?! (笑)」

研究室は、宿屋の BGM が流れている.....。

高橋「いや...まで。そんなもんじゃない...もっと...いや、無限だ。価値をつけられるようなもんじゃないぞ! 俺たちにはな！」

ケン「嘘じゃん! 250 ゴールドだったよ?! 高橋くんっ！」

高橋「嘘?! なわけないだろ! ...って何の話してんだ? ケン...」

(ゲームの音：村の BGM)

ケン「高橋くんこそ...! うわ...こぼちゃんが好きそうなものみてる...」

村の BGM が流れる中、ケンが体を反らせて、高橋のパソコン画面を覗き込む...

しかし高橋は気にせず、マウスのやじるしを動かしまくって 3D の女の子をぐるぐる回してる。

高橋「いーいーの。俺の趣味ですー。ああ...おお! すげえ...見えそう! ところどころ! あああ大事なところに白いもやが！」

ケン「...ごめん...ついていけない... (苦笑)」

高橋「なにっ?!」

ダンっと机をたたく!

ケン「た!高橋くんっ?! (笑)」(ビクッ)

高橋「ついていけない...だとお...?」

ケン「そ...そんな、怒らないでよ...!ね?ごめん... (笑) あ!そうだ、この曲聞いてみてよ!歌うと酸欠気味になれる歌だよ!♪」

とかいいどこからともなく「ギャ○△画○和+○○の○△の...」のCDを取り出した!!

高橋「お前は!」

ビシッ! (←指差した音)

ケン「ん.....?♪あ、こっちのほうがいいかな?♪」

とか言うともまた、どこからともなく

「旅行から帰ってきたらハムスターが死んでた」のCDを取り出す!!

高橋「女の子に興味が薄すぎる!ってか聞いてんのか!人の話をー! (笑)」

ケン「え?.....聞ってる.....けど...?あ!このCDはね、この、「おまえのガーデニングは最悪」の前のやつね!牛山さんの...」

高橋「このアニメはケンぷファーなんだぞ?! ジャンル飛び越しちゃ駄目ー!!!」

高橋「だいたい!...あの女といてもなにもないのか?!」

ケン「あの女って...? (笑)」

ちゃっかり CD をパソコンにセットしてる。

「おまえのガーデニングは最悪」の歌が研究室に流れる。

高橋「猫みたいな鈍い女だ! (※あいちゃんのことです)」

♪なんだそのガーデニングは

ケン「あ...もしかして、あいちゃんのこと?♪」

(ポンッと手を叩いて、にこにこしてる)

高橋「お前! 男だろ!」

ケン「うん!」

♪おかしなことになっているぞ

高橋「だーったら！抱きつけ！」

♪そんなガーデニングなら

ケン「え？（笑）あはは！無理だよ～、僕そんなことできないし！だいたい高橋くんみたく大胆じゃないからね！（とは言え...この前したことは黙っておこう...）」

♪やらない方がまだ

高橋「だから駄目なんだよ！...相手は猫女。ちょろそうだろ.....？」

ケン「む...。あのね！高橋くん！あいちゃんは思ってる以上に簡単にいかないんだからね！わかって...！」

♪やらない方がまだ

高橋「まーた...すぐむきになるなあ...ケンは。.....もしかしてあいのこと...」

ケン「んな！（笑）ち...違う！...そうじゃなくて！！（顔赤）」

(下向きながら、ぶんぶん顔をふる！)

高橋「ほお...じゃあフリーか？(ニヤッ...)」

ケン「な...。高橋くん...。怒るよ？...というか...高橋くんは、こばちゃんが好きって...言ってる...。それなのにさ...なんで(拗ねてる)」

高橋「わ悪い！♪いやぁ...ケンが妬いてるから面白くて！」

ケン「全然面白くないっ！！」

♪おまえのガーデニングは

高橋「わかったって～(笑) な？...ははは...！」

♪最悪

ケン「...ふん...」

ケンは再び自分のパソコンと向き合う。

高橋「なあ、ケン。」

ケン「んー...なに。」

♪おまえのガーデニングは

高橋「女を落とすテク、覚えとけ（笑）」

ケン「いいって...僕には必要ないし...」

高橋「...彼女のため...にさ？」

ケン「か！...けほっ...！彼女...！？あ...ああ...ありがと～。でも気持ちだけでい...」

高橋「...俺は、ケンのために協力してやるって言ってるんだぞ？...相棒の恋も、俺の恋も...実るために！！」

♪めちやくちやだ

ケン「.....っ！もおお！」（顔を両手で隠してる）

高橋「ケンの考えてることは俺にはわかる。.....素直に白状するんだ、ケン殿（笑）」

ケン「くっ...。わかりました...高橋大帝...」

高橋「...俺、大帝なの？」

ケン「...ノリです（笑）」

.....そして！

ケン「な！なんで私、変身しなきゃいけないのお？！（それも高橋くんの前で...！！）」

もじもじして...恥ずかしそうに目をいろんなところに泳がせてる.....。

高橋「ほお...やっぱり、素敵だ...」

ケン「うっとりしてなくていいから！早く！恥ずかしいよ！！」

高橋「ん、わかってる。説明はこうだ。女を知るには己から！」
ビシッ（指差した音）

ケン「で...この変身はどういう...」

高橋「まだわかんないのか？...感じろ。」

ケン「な！（笑）...に...を...？」

高橋「女の鼓動を...！」（←自分で自分を抱きしめてる）

ケン「意味がわからないんだけど！？（笑）」

高橋「ったく...しょーがねーな...。脱げ。」

ケン「は?!」

高橋「早く」

ケン「ねえ！まって！何を？！何を脱ぐの？！...うわう...！」

高橋が後ろから抱きつき、ケンの服に手をかける！
そして片手がズボンを掴む！

ケン「あああ...！いやあう...いやああああ...！」

高橋「うるせえ（笑）男同士なんだから気にすんな！」

ケン「だめ！...だめなの！！大事なもの今ついてないの！みないで！えっ
ち！！えっちミスター高橋くん！！」

高橋「黙ってろ...！！」

ケン「ああ...っ！！？」

ズボッ！っと手が大事なところに....

ケン「んっ.....！！」（顔が真っ赤になる...）

高橋「うお...ホントに無いぞ...」

ケン「や...め...て...え...。高橋く...」

高橋「...ケンぷファーになると胸もあるしな....。しかもでかい...」

もにゅっと片手が胸を掴む！

ケン「あ...っ...あう?!」

高橋「(やべえ...俺にはこばという大事な娘がいながら...)」

ケン「(な...なにこれええ...男の時より倍気持ちいい...!?...あ...ああ...高橋くんの手つきがさっきよりも大胆っ...)」

高橋「(こば...ごめん...こば...ごめん!これは、俺のため...そしてケンのためのミッションなんだ...!)」

ケン「はあ...ああ...た...高橋...く...熱い...」

高橋「女の子...犯してるみたいだな...」

ケン「う...う...んん...っ」(ビクッ)

高橋「ケン...」

ガチャっ! (研究室のドアが開いた音)

こば「高橋くん! どう?様子見にき.....」

あい「やっほー!私もいますよ.....っ」

高橋「うわあ！！」
慌ててバツと手を離す！！

ケン「...ん...。.....！！え！？あいちゃ！...こぼちゃんっ?!」

こぼ「.....」（目元がくらくなっていく...）

高橋「こ！こぼ！違うんだ！これは！！」
ケン「あ！あああああ！あいちゃんっ?!?!?!」

あい「ケン...ちゃん...」（←立ち尽くしてる）

ケン「ち！ちが！誤解だ！？（うわあああ！！？私のぼかー！もうだめじゃないか！！あいちゃんっわかってくれ！これは...あいちゃんのためのおおお!!!?）」

こぼ「.....さよなら...」

ボタン（ドアを閉めた音）

高橋「ま！？待ってくれっ?!こぼーあ!!!?！」

ドアをバンバン叩いて叫んでる。
とりあえず部屋の中は3人になった。

ケン「あいちゃんっ！！（半泣き状態）」（←変身といた）

あい「.....どうして.....」

ケン「誤解なんだあう！！」←ひざまずきながらガバッと抱きつき必死な人

あい「.....BLは好きだけど....。だけど...軽くショックだった...」

ケン「あれはね！高橋くんが考えたの！僕が...その...あいちゃんのために頑張ろうと思った作戦で...！女になって女を感じるって作戦なんだ！もうほんと！ごめんなさいごめんなさい！！」（←もう土下座してる）（床に頭突きガスガスしてるくらいな勢いで）（笑）

あい「ケンちゃん...」

スッとケンの頭に手の平をのせる。

ケン「.....！（涙目）」

あい「いいの...気にしてないよ（にこっ）」

ケン「あい...ちゃあん...（泣）」

あい「ケンちゃん...」（そのままよしよしとなでている...）

高橋「くそう！ケンはいいな！こっちなんで怒って帰ったぞ？！...こばああ！！」

あい「それはいいけど...」（青いバングルが輝く！！）

ケン「.....?（涙目で見上げる）」

アイ「てめえ...いい度胸してんな?!このカスが高橋!」

ケン「うぁ!アイちゃん光臨?!」（ズザッと後ずさりをした）

高橋に近づくと睨みつけた。

アイ「きさま...どういふつもりだ...」

高橋「なにがだ...?」



ケンな！（笑）オレは知ってるんだぞ？お前がオレ様のケンに手出してるの...ばっちりこの目で見たしなあ...。その前に、親友のこばにまで手出すとか...気に入らねえ！」

高橋「ほお...（笑）それは俺も同じだ。俺の相棒に手出して、しかもこばの相棒だっていうのも気に入らないな...。」

アイ「貴様...どういうことだ...」

高橋「ああ？よくわかんねえな...」

アイ「つぶされてえのか...高橋...」

高橋「この前、駅前でちゃっかり手なんて繋いでたぞ...！どういうことだ？！」

アイ「てめえに教える筋合いはねえな...？（笑）だいたいお前もこばに抱きついてたぞ！！あの時何した！操ってこばをものにしようたってそうはいかねえんだよ！この、揚げ玉Zが！！」

ケン「Z？！（笑）って、ちょ！ちょっと！2人とも.....？！！（笑）...うわっ？！」

バグゴゴオオオオオン！！（アイが火の玉を打って爆発した音！）

高橋「やる気か...面白い...（ニヤッ）」

アイ「上等だ！このやろー！！」

ケン「まって！2人とも！！ちゃんと話し合おうじゃないかー！ね？
ね！！ほら...誤解かもしれないっ？！...そのー...えっとー...あのおー...
ああ！ほらっ！ね？！平和が1番さー！」

高橋「.....腹減ったな...どうしてくれんだよ...」

アイ「.....じゃあ、オレとこぼとケンに、たこ焼きおごれや...」

バグオオオオン！！

ズゴアアァン！！

ケン「うわああ！？」

ボンっ！ボンっ！ボンっ！とパソコンが次々に爆発する！

高橋「こぼはともかく！なんで俺がお前とケンにまでたこ焼きおごんだ
よ！！？ふざケンな！！（笑）つかむしろ俺が腹減ってんのに！って俺の
分は無しかよ？！」

高橋が空中でふった剣がパソコンを真っ二つに切る！

アイ「ふんっ……！ぱしりだ！」

そして火花が飛び散る！！

高橋「なんだと！！俺は何でいつもこういう扱いしかされないんだよ？！
おい！作者？！」

蛍光灯のヒューズが飛ぶ！

バチバチいってるパソコンの横の机に飛び乗り、互いに空中戦に持ち込む？！

ガチャ！バタンっ！と飛び出すようにケンは何から逃げ出した！

廊下にはこばがいた。

ケン「…っ…！だめだああ…僕の言葉が、まるで聞こえてない…。もおお！！あいちゃん！高橋くん！たこ焼きは後で僕がおごるからあ！！（あれ？！こばちゃんの分もだよね？！ん？！3つ？！いや…僕も食べる！！4つだ！！）」（頭をかかえて悩みこむ）

こば「（たこ焼き…？）ねえ…？なんか中ですごい音がしてるけど…」

ケン「そ…そうなんだ…！高橋くんとあいちゃんが…」

こば「え？！」

ケン「僕と...こばちゃんのことで大ゲンカしてるんだ！！（あと、たこ焼きのこと！！）」

こば「ええっ？！...どうしよう？！」

ケン「止めたいけど...どうやって止めよう...（あ...ゲームセーブしといてよかった...）」←ちょっとホッとしてる。

こば「...あいちゃん...高橋くん...」

通りすがりの学生 A「なんだ？なかですごい音がしてるけど...」

こば「あ！...こ、これは...実験なの！」

学生 A「実験？」

こば「そう！薬品の実験～」

ケン「教室、ここ借りてるんだよね！」

こば「そうそう！他の教室、満タンで！」

学生 B「死ぬ！とか、このやろーとか聞こえるけど...？（笑）」

ケン「ああ！きっと薬品に八つ当たりしてるんだよ！ね？！」

こば「そ...そう！薬品に八つ当たりしてるんだよ！！」

学生 C 「そうなのか？短気なんだね…」

こば 「は…ははは…」

ケン 「あは…はははは…」

学生たちは去って行った。

こば 「どうしよ…。こばも参戦するか。」

ケン 「こばちゃん？！駄目だよ！今の 2 人は危険すぎるよ！っわ…！」

バゴォォンっつと教室内でまた爆発が起きた。

こば 「でも…行くしかない…！」（青いバングルが輝く！）

こばの手元に銃があらわれ、髪に 2 本のメッシュが入る。

ケン 「こばちゃんっ！」

こば 「大丈夫…。タイミングを見計らって突入する…」

ケン 「……（ごくっ）」

こばが銃を両手で構え、ドアの横に立つ。

しばらく、2 人はドアの前の張り込み警部みたいな真似をしていた…

こばが右側のドアノブ側。

ケンが左側。しかもエア―銃（銃を構えてる真似をしてるだけ）で待機。

こば「……………？静かだな…？」

ケン「……もういいころかな…？」

こば「……いくよ…」

ケン「(コクっ)」(←頷いた音)

ゆっくりと…ドアに手をかける…。

ガ…チャ…。

こば「っ！？」

ブアッと熱風が吹き漏れてきた！

ケン「あ…暑っ！なにこれ…！！っ…高橋くん？！…アイちゃん？！」

教室の中で倒れてるアイと高橋がいた…。

こば「アイちゃん！」

この続きは
製品版にて！

裏の美術倉庫 佐藤あい 「けんぷ?!2」 SAMPLE
おためしかっ!???!?!